

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 前月比

・ロシア、EU 等で下方修正され、前月から下方修正されたが、史上最高の見込み。

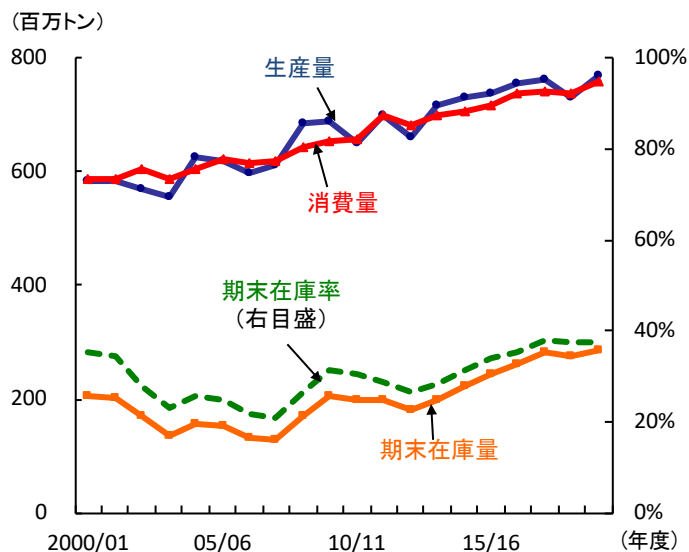
消費量 前年度比 前月比

・ロシア、EU 等で下方修正され、前月から下方修正されたが、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・米国等で上方修正も、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2019.8.12)をもとに農林水産省にて作成

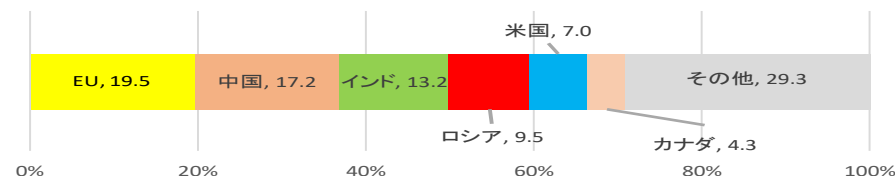
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

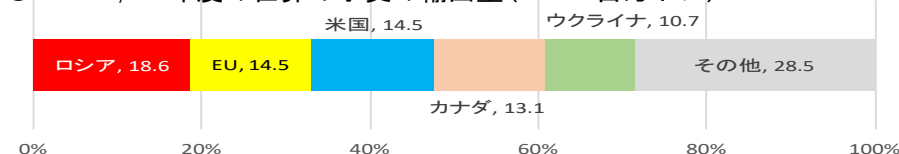
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	761.9	730.6	768.1	▲ 3.4	5.1
消費量	742.8	736.2	758.2	▲ 2.0	3.0
うち飼料用	146.5	140.1	150.3	▲ 0.8	7.3
輸出量	182.0	174.2	182.6	▲ 0.5	4.9
輸入量	179.8	172.6	179.0	0.1	3.7
期末在庫量	281.2	275.5	285.4	▲ 1.1	3.6
期末在庫率	37.9%	37.4%	37.6%	▲ 0.0	0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 August 2019)

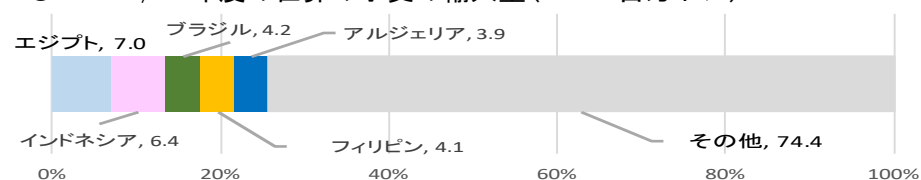
○ 2019/20 年度の世界の小麦の生産量(768.1 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸出量(182.6 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸入量(179.0 百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.8.19)によれば、冬小麦の収穫が終盤を迎えているものの、8月18日時点の収穫進捗率(主要生産18州)は93%と、前年度同期(97%)及び5年平均(98%)を下回っている。

また、春小麦も収穫が進展しているものの、同日時点の収穫進捗率(主要生産6州)は16%と、前年度同期(56%)及び5年平均(49%)を下回っている。作柄評価は、良からやや良が70%と前週に比べ1ポイント上昇したものの、前年度同期の74%を下回っている。

2019/20年度の生産量は、前月予測から1.6百万トン上方修正され、53.9百万トンとなる見込み。内訳は、冬小麦は前月より1.0百万トン上方修正され36.1百万トン(対前年度比12.0%増)、春小麦は0.7百万トン上方修正され16.2百万トン(対前年度比4.3%減)。冬・春小麦とも単収が上方修正された。一方、デュラム小麦は単収の下方修正から、前月より0.02百万トン下方修正され1.6百万トン(対前年度比25.8%減)の見込み。

【需給動向】飼料用需要は、小麦の生産量の増加等から、前月から0.6百万トン上方修正され4.6百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】輸出量は、EU、カザフスタン、ロシア等の生産量の下方修正による輸出余力の低下見込により、前月から0.7百万トン上方修正され、26.5百万トンの見込み。

米国の小麦輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

順位	国名	2019年輸出検証高	2019年7月の輸出検証高
1	メキシコ	191.5	2.5
2	フィリピン	175.7	1.6
3	ナイジェリア	158.6	1.6
4	日本	138.0	1.2
5	台湾	75.8	1.1
6	アルジェリア	56.7	0.9
	その他	817.6	7.5
	計	1614.0	16.3

資料: USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

小麦－米国

(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.4	51.3	53.9	1.6	5.1
消費量	29.3	30.2	32.6	0.4	7.9
うち飼料用	1.3	2.6	4.6	0.6	76.7
輸出量	24.7	25.5	26.5	0.7	4.2
輸入量	4.3	3.7	3.7	▲0.1	-
期末在庫量	29.9	29.2	27.6	0.4	▲5.4
期末在庫率	55.5%	52.4%	46.7%	▲0.2	▲5.7

(参考)

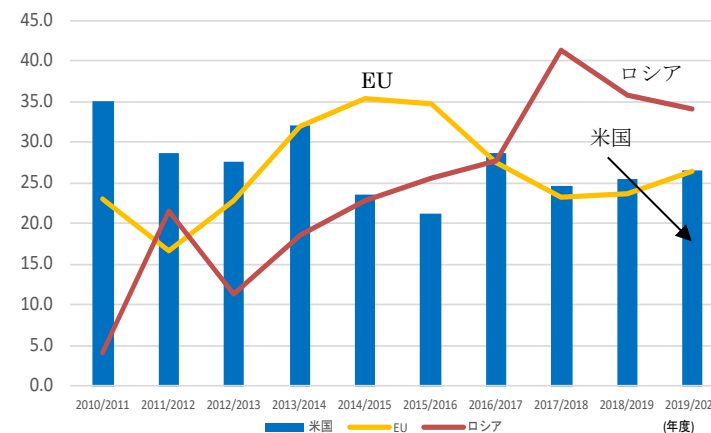
収穫面積(百万ha)	15.20	16.03	15.54	-	▲3.1
単収(t/ha)	3.12	3.20	3.47	0.11	8.4

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)

米国、ロシア、EUの小麦輸出量の推移

2017/18年度以降、ロシアの輸出量が高水準となり米国の輸出量は平均25.6百万トンとなっている。

(百万トン)



資料: USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

< カナダ >

【生育・生産状況】

主要産地の平原三州では、8月に入り乾燥天候となったものの、その後の温暖な天候と降雨による土壌水分改善で、春小麦は順調に生育し、単収が上昇した。

各州政府によれば、アルバータ州では春小麦の71.7%、デュラム小麦の37.2%が良からやや良の作柄評価となっている。また、収穫が進展しているマニトバ州では、8月20日現在、冬小麦の収穫進捗率は90%、サスカチュワン州では、8月12日現在、生育が1~2週間遅れており、春小麦の収穫は開始されていない。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく33.3百万トンと、前年度より4.7%増加する見込み。なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)の8月報告によれば、生産量は、生育状況の改善による単収の上昇から、前月予測から0.5百万トン上方修正され32.5百万トン。内訳は、普通小麦が0.4百万トン上方修正され27.4百万トン、デュラム小麦は0.1百万トン上方修正され5.1百万トン。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、輸出量は前月からの変更はなく、23.6百万トン。

< 中国 >

【生育・生産状況】中国中央气象台によれば、2019/20年度の冬小麦の収穫は7月に終了、品質は前年度を上回っている。春小麦は、8月上旬現在、黒竜江省で乳熟期、甘粛省、河北省等で開花期に入っている。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より0.4%増加の132.0百万トンの見込み。

中国糧油情報センターによれば、2019/20年度の生産量は134.0百万トン。内訳は、冬小麦は前月より1.0百万トン上方修正され127.0百万トン、春小麦は前月からの変更は無く7.0百万トンの見込み。冬小麦は、生産地の大部分で、作付期から気温、降水量とも適宜で、積算温度も例年より高く、干ばつ等の災害が少なかったため、単収が予想を上回った。

小麦—カナダ

(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	30.0	31.8	33.3 (32.5)	-	4.7
消費量	9.4	9.0	9.3 (8.7)	-	3.3
うち飼料用	4.5	4.1	4.3 (3.9)	-	4.9
輸 出 量	22.0	24.5	24.0 (23.6)	-	▲ 2.0
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	5.9	4.7	5.1 (5.5)	-	9.6
期末在庫率	18.9%	13.9%	15.4% (17.0%)	-	1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	9.90	9.70 (9.78)	-	▲ 2.0
単収(t/ha)	3.34	3.21	3.43 (3.32)	-	6.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 August 2019)

小麦—中国 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	131.4	132.0 (132.0)	-	0.4
消費量	121.0	125.0	128.0 (128.7)	-	2.4
うち飼料用	17.5	20.0	21.0 (20.8)	-	5.0
輸 出 量	1.0	1.0	1.3 (1.2)	-	28.7
輸 入 量	3.9	3.2	3.5 (3.6)	-	11.1
期末在庫量	131.2	139.8	146.0 (127.2)	0.1	4.4
期末在庫率	107.5%	110.9%	112.9% (97.9%)	0.1	2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.51	24.27	24.10 (24.00)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	5.48	5.42	5.48 (5.50)	-	1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
IGC 「Grain Market Report」(25 July 2019)

< EU >

【生育・生産状況】USDAによれば、6月から継続する高温・乾燥で、小麦の収穫期が前倒しとなり、8月7日現在、フランスでは普通小麦の87%、ドイツでは85%以上、ポーランドでは70%以上が収穫された。また、英国では8月上旬から収穫が開始された。その後、収穫は降雨の障害もなく各国で順調に進んでいる。

USDAによれば、主要生産国のフランスでは厳しい天候条件にもかかわらず生産量は38.7百万トンと5年平均(37.1百万トン)を超える一方で、6月の高温・乾燥は他の域内各国に影響を及ぼし、特にイタリア北部、スペインでは作柄が悪化した。このため、2019/20年度の生産量は、前月予測から1.3百万トン下方修正され150.0百万トンとなる見込み。干ばつで生産量が減少した前年度と比べると、9.6%上回るものの、EUの5年平均の生産量(151.0百万トン)を若干下回る見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産予測が下方修正されたことから、前月予測から0.5百万トン下方修正され26.5百万トンとなる見込み。

< ロシア >

【生育・生産状況】ロシア農業市況研究所によれば、7月は、冬小麦が沿ボルガ連邦管区で完熟期、6月に高温となった主要産地の南連邦管区等で天候に恵まれ収穫が進展した。一方、春小麦は、シベリア連邦管区で一部水分過多状態となる中、乳熟期を迎えた。ロシア全体の収穫進捗率は、8月13日現在で51.6%となっている。

USDAによれば、生産量は、前月予測から1.2百万トン下方修正され、73.0百万トンの見込み。内訳は、冬小麦が前月より1.0百万トン下方修正され54.0百万トン、春小麦が0.2百万トン下方修正され19.0百万トン。冬・春小麦とも、収穫面積が上方修正されたものの、単収が低下した。なお、冬小麦の単収の低下は6月の高温乾燥天候による。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産量の下方修正により、前月予測から0.5百万トン下方修正され34.0百万トンの見込み。

小麦-EU

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	151.1	136.9	150.0 (149.7)	▲ 1.3	9.6
消費量	130.4	123.2	127.5 (127.2)	▲ 0.5	3.5
うち飼料用	58.0	52.0	56.0 (53.4)	▲ 0.5	7.7
輸 出 量	23.3	23.6	26.5 (26.7)	▲ 0.5	12.3
輸 入 量	5.8	5.7	5.5 (5.1)	-	▲ 3.5
期末在庫量	14.0	9.7	11.2 (15.5)	▲ 0.4	15.4
期末在庫率	9.1%	6.6%	7.3% (10.0%)	▲ 0.2	0.7

(参考)
 収穫面積(百万ha) 26.16 25.59 26.15 (26.02) ▲ 0.30 2.2
 単収(t/ha) 5.78 5.35 5.74 (5.8) 0.02 7.3
 資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 USDA 「PS&D」(12 August 2019)
 EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(25 July 2019)

小麦-ロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	85.2	71.7	73.0 (75.7)	▲ 1.2	1.8
消費量	43.0	40.5	40.0 (41.4)	▲ 0.5	▲ 1.2
うち飼料用	20.0	18.0	17.5 (17.9)	▲ 0.5	▲ 2.8
輸 出 量	41.4	35.7	34.0 (34.7)	▲ 0.5	▲ 4.8
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.4)	▲ 0.0	4.3
期末在庫量	12.0	8.0	7.5 (9.8)	0.0	▲ 6.6
期末在庫率	14.3%	10.5%	10.1% (12.8%)	0.2	▲ 0.4

(参考)
 収穫面積(百万ha) 27.37 26.34 27.00 (27.30) 0.70 2.5
 単収(t/ha) 3.11 2.72 2.70 (2.77) ▲ 0.12 ▲ 0.7
 資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(12 August 2019)
 IGC 「Grain Market Report」(25 July 2019)

<豪州>

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度は、ウェスタンオーストラリア州で、十分な土壌水分と適宜な気温に恵まれ小麦の生育は順調であるが、さらなる追加の降雨が望まれている。また、ニューサウスウェールズ州南部、ビクトリア州、サウスオーストラリア州では降雨があり、単収の見込みは良好。一方、ニューサウスウェールズ州北部及びクィーンズランド州南部では、8月も引き続き乾燥型の天候となり、更に単収の見通しが悪化。

2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、21.0百万トンで、干ばつにより生産量が減少した前年度より21.4%増加する見込み。

なお、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian crop report」(2019.6.12)によれば、2019/20年度の実績は、前年度(17.3百万トン)より22.5%増加し21.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、前月からの変更はなく、12.5百万トンの見込み。豪州の輸出市場のひとつである東南アジア市場では、ウクライナ等が輸出を伸ばしている。同地域で最大の小麦輸入国であるインドネシアでは、豪州からの輸入シェアが2016年33.2%(3.5百万トン)、2017年44.6%(5.1百万トン)であったが、2018年は23.8%(2.4百万トン)に低下。ABARESは、2019年は生産増加により輸出価格が低下すればシェアを回復するとみている。

インドネシアの小麦輸入量における豪州産小麦のシェアの推移

2016			2017			2018		
国名	輸出量(千トン)	シェア(%)	国名	輸出量(千トン)	シェア(%)	国名	輸出量(千トン)	シェア(%)
豪州	3,500	33.2	豪州	5,104	44.6	ウクライナ	2,440	24.0
ウクライナ	2,469	23.4	ウクライナ	1,985	17.4	豪州	2,420	23.8
カナダ	1,658	15.7	カナダ	1,686	14.7	カナダ	1,974	19.4
アルゼンチン	1,289	12.2	ロシア	1,222	10.7	ロシア	1,228	12.1
米国	939	8.9	米国	1,150	10.1	米国	904	8.9
その他	680	6.5	その他	287	2.5	その他	1,192	11.7
計	10,535	100.0	計	11,434	100.0	計	10,158	100.0

資料:「インドネシア貿易統計白書」をもとに農林水産省で作成。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

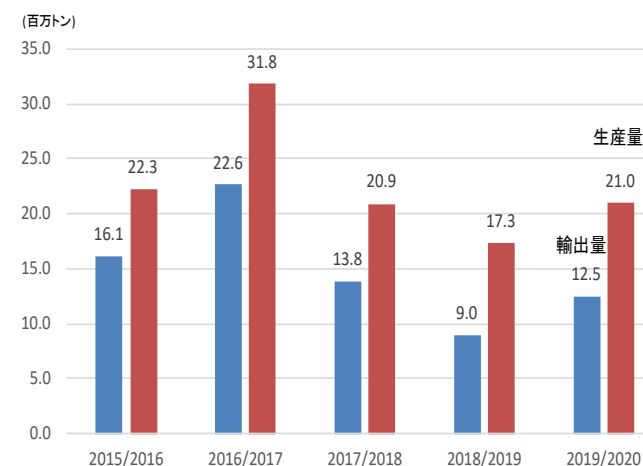
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.9	17.3	21.0 (21.2)	-	21.4
消費量	7.5	9.2	8.5 (8.3)	-	▲ 7.6
うち飼料用	4.0	5.7	5.0 (4.8)	-	▲ 12.3
輸出量	13.9	9.0	12.5 (13.3)	-	38.9
輸入量	0.2	0.4	0.2 (0.2)	-	▲ 58.3
期末在庫量	5.5	5.0	5.1 (4.3)	0.1	3.0
期末在庫率	25.8%	27.3%	24.4% (20.1%)	0.3	▲ 2.9

(参考)

収穫面積(百万ha)※	10.92	10.16	11.00 (10.97)	-	8.3
単収(t/ha)	1.92	1.70	1.91 (1.93)	-	12.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
IGC 「Grain Market Report」(25 July 2019)

豪州の小麦生産量・輸出量の推移
(2015/16～2019/20年度)



資料: USDA 「PS&D」をもとに農林水産省で作成

<伸びる東南アジアの小麦需要>

東南アジア全体では、所得の向上に伴い、食の西洋化、多様化が進んでいる。この結果、主食の米の需要は伸び悩み、パンや麺類をはじめとする小麦や、肉類へと需要がシフトしている。

東南アジア全体では、高温多雨の気候特性のため小麦の栽培に向かないことから、ほとんどが輸入に依存しており、近年、食用や飼料用の向けの小麦の輸入が大幅に増加し、地域別輸入量では北アフリカを抜いて世界1位となる見通し。

東南アジアでは、食の西洋化、多様化に伴い小麦の輸入が伸びており、東南アジア全体では10年前と比較すると輸入量は倍増の27.5百万トン(我が国の小麦輸入量の4倍以上)となり、2019/20年度には世界の地域別小麦輸入でも北アフリカを抜き、世界一の小麦の輸入地域となる見通し。特に、ASEAN 経済統合が行われた2015年以降の輸入量が伸びており、国別では、インドネシア、フィリピンの伸びが目立っている。インドネシアは世界一の小麦輸入国となっている。

輸入先については、従来は地理的にも近い豪州からの輸入が多かったが、2018/19年度の豪州の干ばつ以降、豪州産小麦の輸出価格が高騰した。食料用は米国産が多いが、飼料用需要を中心に安価なロシアやウクライナからの輸入が目立っている。最近ではアルゼンチン産を輸入する動きも見られる等、輸入先が多角化している。

東南アジアの需要の内訳では、インドネシアやフィリピン、ベトナムでは食用需要が多く、タイでは飼料用需要が食用需要を上回っている。

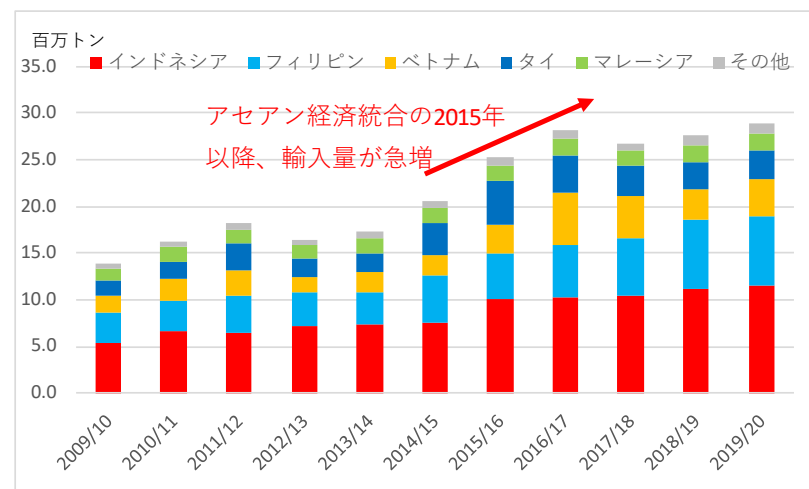
表：東南アジアの主要国の用途別小麦需要(2019/20年度)

(単位:百万トン)

	飼料用	食用その他	計
インドネシア	2.2	9.0	11.2
フィリピン	3.3	4.0	7.3
ベトナム	1.5	2.0	3.5
タイ	1.6	1.2	2.8
その他	0.0	2.6	2.7
東南アジア計	8.6	18.9	27.5

出典：USDA「PS&D」(2019.8)を農林水産省にて加工

図：東南アジアの小麦輸入量の推移



出典：USDA「PS&D」(2019.8)を農林水産省にて加工

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

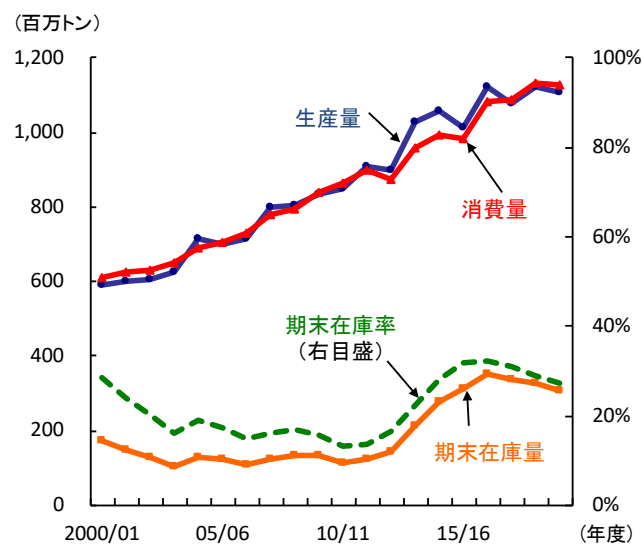
2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑
 ・ウクライナ等で上方修正により、前月から上方修正された。

消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↓
 ・中国等で下方修正等により、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓
 ・ウクライナで上方修正も米国等で下方修正により、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2019.8.12)をもとに農林水産省にて作成

◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

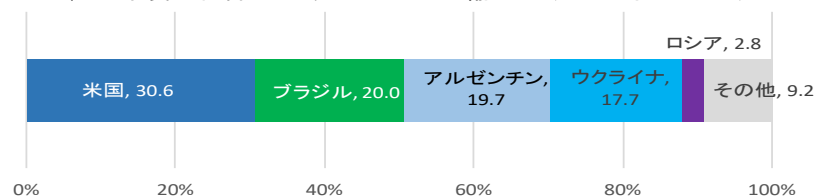
年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,078.0	1,123.0	1,108.2	3.1	▲ 1.3
消費量	1,090.0	1,133.8	1,129.1	▲ 5.9	▲ 0.4
うち飼料用	673.0	696.4	694.4	▲ 2.0	▲ 0.3
輸出量	148.7	176.2	169.9	▲ 0.9	▲ 3.6
輸入量	150.0	163.2	169.3	1.5	3.7
期末在庫量	339.4	328.6	307.7	8.8	▲ 6.3
期末在庫率	31.1%	29.0%	27.3%	0.9	▲ 1.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2019)

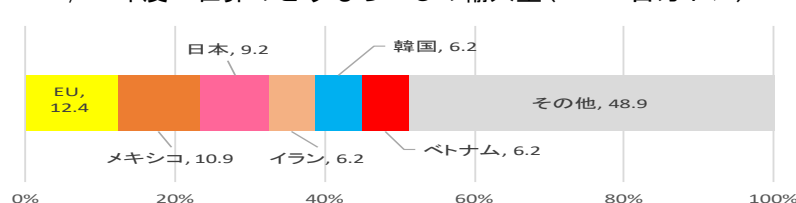
○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの生産量(1108.2百万トン) (単位:%)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸出量(169.9百万トン)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸入量(169.3百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】3月から6月まで断続的に続いた降雨により、作付け、生育に遅れが生じた。7月末から8月上旬にかけて、おおむね良好な天候で例年より約1週間遅れで受粉が完了したとみられる。

なお、米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.8.19)によれば、8月18日時点のデント進捗率は15%と、過去5年平均(30%)より遅れている。

USDAの「Crop Production」(2019.8.12)によれば、収穫面積は「作付面積調査」(2019.6.28)から下方修正されたものの、単収で上方修正された。その結果、生産量は前年度(366.3百万トン)を下回るものの、前月予測から0.6百万トン上方修正され、353.1百万トンの見通し。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、エタノール用需要の下方修正により前月予測から下方修正され、前年度比0.4%減の306.9百万トン。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、南米等の輸出余力が増加していることから、前月予測から下方修正され、前年度比2.4%減の52.1百万トンの見込み。なお、輸出検証高(2019年1月1日～8月1日)は26.6百万トンであり、内訳は、日本(8.4百万トン)、メキシコ(7.6百万トン)、コロンビア(2.8百万トン)の順である。

とうもろこしー米国

(単位:百万トン)

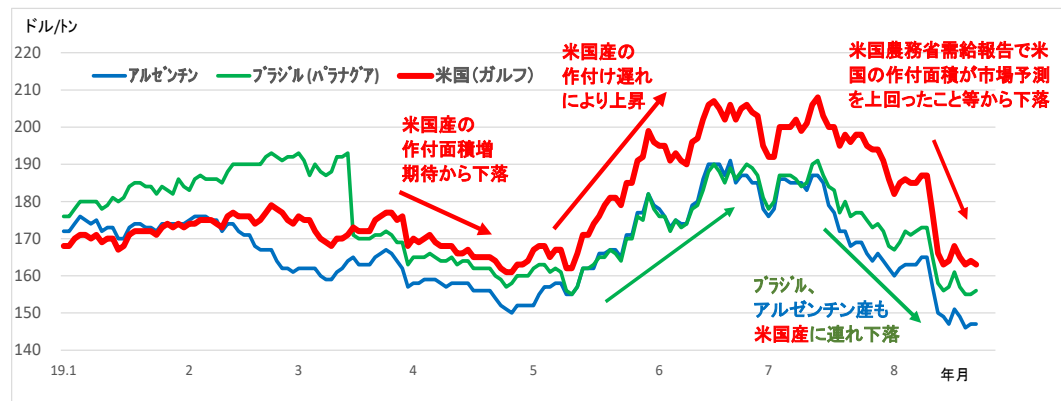
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	371.1	366.3	353.1	0.6	▲ 3.6
消費量	314.0	308.1	306.9	▲ 0.6	▲ 0.4
うち飼料用	134.7	134.0	131.5	-	▲ 1.9
エタノール用等	142.4	137.8	139.1	▲ 0.6	0.9
輸 出 量	61.9	53.3	52.1	▲ 2.5	▲ 2.4
輸 入 量	0.9	0.8	1.3	-	67.1
期末在庫量	54.4	60.0	55.4	4.3	▲ 7.6
期末在庫率	14.5%	16.6%	15.4%	1.3	▲ 1.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	33.48	33.08	33.19	▲ 0.64	0.3
単収(t/ha)	11.08	11.07	10.64	0.22	▲ 3.9

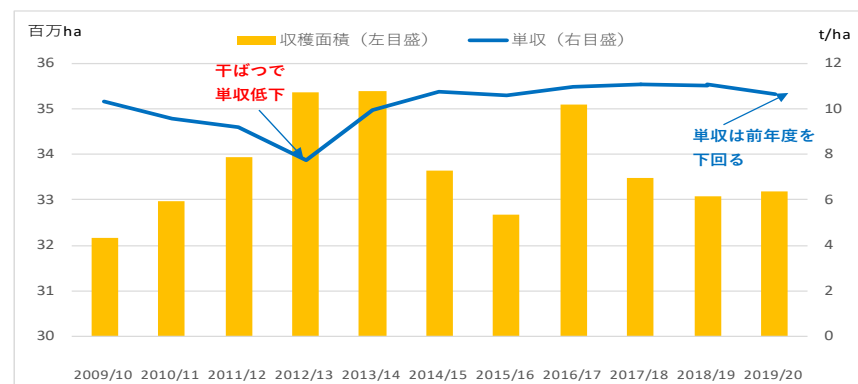
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

図: 米国産とうもろこしの過去10年間との単収・収穫面積の比較



資料: USDA 「PS&D」(2019.8)のデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、例年10月以降作付けされる2019/20年度の生産量は、前年度並の101.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2019.8.8)によれば、2018/19年度のとうもろこし(夏冬の合計)の生産量は99.3百万トンと2017/18年度(80.7百万トン)より増加する見込み。うち、収穫済みの夏とうもろこしは26.2百万トン(前年度比2.1%減)、収穫が終盤を迎えた冬とうもろこしは73.1百万トン(前年度比35.6%増)である。(P.17大豆-ブラジルのクロープカレンダー参照)。

2018/19年度の冬とうもろこしの収穫は終盤を迎えている。生産量が最も多い中西部のマト Grosso 州で8月中旬までに収穫が終了、2位の南部のパラナ州で8月12日現在、収穫率が87%と平年より早いペースで進展している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2018/19年度の輸出量は37.0百万トンに増加し、2019/20年度も34.0百万トンが見込まれ、世界第2位の輸出国の座をアルゼンチン、ウクライナと争っている。(図参照)。

ブラジル貿易統計によると、6月の輸出量は1.4百万トンで、主な輸出先は、イラン、ベトナム及び日本となっている。2019年1~6月までの輸出量累計は9.3百万トンで前年同期比79%増となっている。今後、冬とうもろこしの収穫に伴い、輸出が最盛期を迎えるとみられる。

とうもろこし-ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

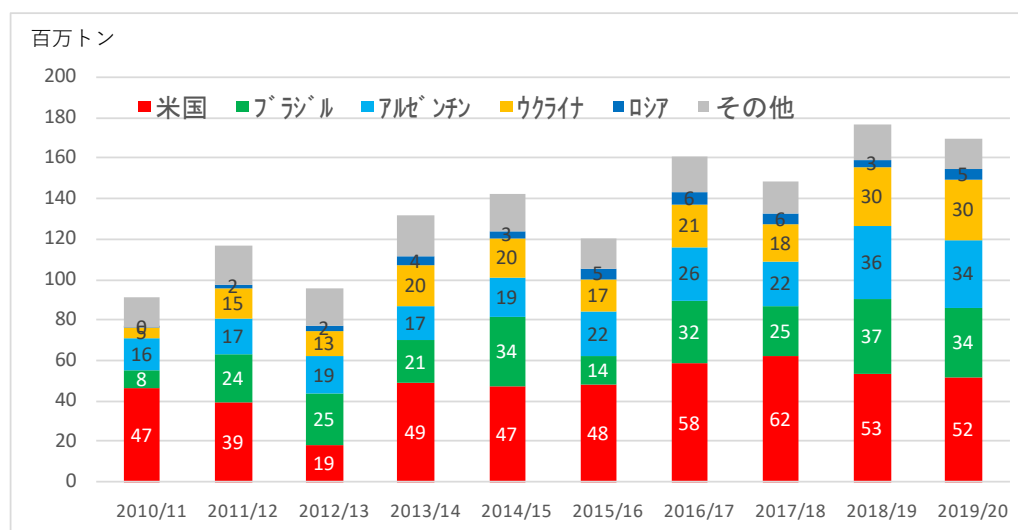
(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	82.0	101.0	101.0 (101.0)	-	-
消費量	64.5	66.0	68.0 (67.5)	▲ 1.5	3.0
うち飼料用	55.0	56.0	57.0 (53.5)	▲ 1.0	1.8
輸出量	25.1	37.0	34.0 (34.0)	-	▲ 8.1
輸入量	0.9	1.0	1.0 (0.3)	-	-
期末在庫量	7.3	6.3	6.3 (6.6)	-	-
期末在庫率	8.2%	6.1%	6.2% (6.5%)	0.0	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.60	17.50	18.10 (17.80)	-	3.4
単収(t/ha)	4.94	5.77	5.58 (5.67)	-	▲ 3.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
IGC 「Grain Market Report」(25 July 2019)

図: 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

米国のシェアが低下、ブラジル、アルゼンチン、ウクライナが2位争い



資料: USDA 「PS&D」(2019.8)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、例年9月以降作付けされる2019/20年度の生産量は、前月予測から変更なく50.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所の週報(2019.8.22)によれば、2018/19年度の収穫が終盤を迎えており、進捗率は94.5%である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前年度より6.9%減の33.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2019年1～6月の輸出量は17.1百万トンで、主要輸出先は、エジプト、ベトナム、韓国である。

とうもろこし-アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.0	51.0	50.0 (56.1)	-	▲ 2.0
消費量	12.4	13.8	15.0 (23.0)	-	8.7
うち飼料用	8.5	9.7	10.3 (18.0)	-	6.2
輸 出 量	22.0	36.0	33.5 (33.0)	-	▲ 6.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.9	4.1	5.6 (7.4)	▲ 0.5	36.7
期末在庫率	8.4%	8.2%	11.5% (13.3%)	▲ 1.0%	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	6.00	6.10 (7.50)	-	1.7
単収(t/ha)	6.15	8.50	8.20 (7.47)	-	▲ 3.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
IGC「Grain Market Report」(25 July 2019)

< 中国 >

【生育・生産状況】とうもろこしは、概ね順調に8月上旬のシルキング期を迎えたとみられる。USDAによれば、2019/20年度の前月予測から変更なく、作付面積の減少により、前年度より1.3%減の254.0百万トンの見込み。政府に在庫解消政策として、大豆への作付け転換が奨励されている。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、飼料用需要でアフリカ豚コレラの影響が長引いていることから、前月予測から2.0百万トン下方修正され、277.0百万トン。

【貿易情報・その他】米中通商摩擦の影響から、8月6日、中国商務部が、中国国有企業に米国産農産物買付の一時停止を要請したと公表。8月23日には、財政部が2018年7月から米国産農産物の輸入に賦課していた25%の関税に加え、2019年12月15日以降の米国産とうもろこしへの追加課税(10%)について公表した。

中国貿易統計によれば、2019年1～6月の輸入量は3.1百万トンで、そのうち98.6%がウクライナ産である。中国商務部の8月8日のプレスによれば、ウクライナの2019年1～6月の農産物輸出相手先の1位が中国で9.3億ドル。その半分以上をとうもろこしが占めている。なお、USDAによれば、ウクライナは、天候に恵まれ、2019/20年度のとうもろこしの生産量は史上最高の36.5百万トン、輸出量も史上最高の30.0万トンの見通しである。

とうもろこし-中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	259.1	257.3	254.0 (253.6)	-	▲ 1.3
消費量	263.0	273.0	277.0 (284.6)	▲ 2.0	1.5
うち飼料用	187.0	190.0	188.0 (178.0)	▲ 2.0	▲ 1.1
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	3.5	5.0	7.0 (5.0)	-	40.0
期末在庫量	222.5	211.8	195.8 (175.9)	4.0	▲ 7.6
期末在庫率	84.6%	77.6%	70.7% (61.8%)	0.0	▲ 6.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.40	42.13	41.00 (41.48)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	6.11	6.11	6.20 (6.11)	-	1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
IGC「Grain Market Report」(25 July 2019)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量

前年度比 ↓ 前月比 ↑

・タイ等で下方修正も、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。

消費量

前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量

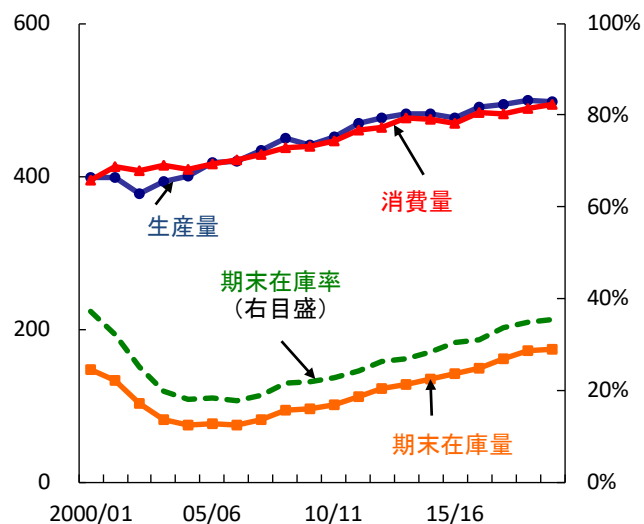
前年度比 ↑ 前月比 ↓

・タイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量

前年度比 ↑ 前月比 ↑

(百万トン)



資料：USDA「PS&D」(2019.8.12)をもとに農林水産省にて作成

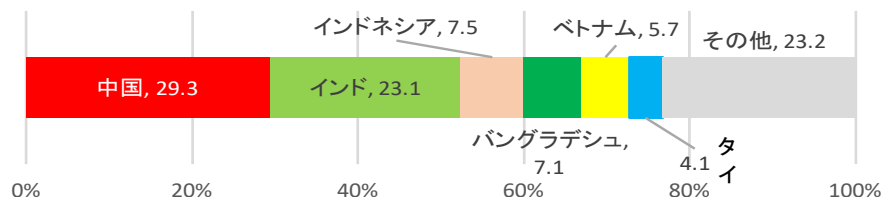
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

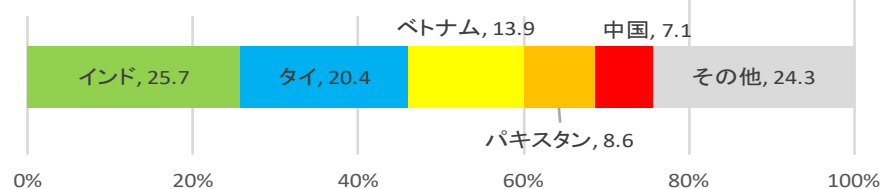
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	494.9	498.6	497.9	0.0	▲ 0.2
消費量	482.2	489.6	494.5	▲ 1.6	1.0
輸出量	47.1	45.6	46.6	▲ 0.3	2.4
輸入量	46.7	44.3	43.9	▲ 0.3	▲ 0.8
期末在庫量	162.3	171.3	174.7	2.0	2.0
期末在庫率	33.6%	35.0%	35.3%	0.5	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2019)

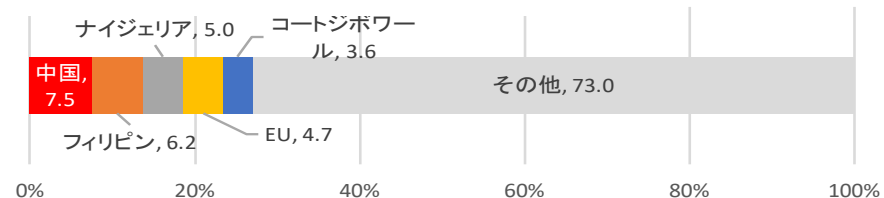
○ 2019/20 年度 世界の米の生産量 (497.9 百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出量 (46.6 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量 (43.9 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】4月から6月に断続的に続いた降雨により南部の長粒種産地で作付、生育に遅れが生じた。米国農務省（USDA）の「Crop Progress」（2019.8.19）によれば、8月18日時点の出穂率は生産州全体で88%となっており、過去5か年平均に比べ、5ポイント遅れている。収穫率は10%となっており、過去5か年平均に比べ、3ポイント遅れている。なお、中・短粒種の生産州であるカリフォルニア州の作柄は良からやや良が100%と良好。USDAによれば、生産量は、長粒種を中心に単収が下方修正されたことから、前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比8.4%減の6.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、減産となるブラジルに比べ競争力のある価格により対前年度比8.8%増の3.2百万トンとなり、中南米で市場シェアを取り戻すと予想されている。輸入量は対前年度比1.1%増の0.9百万トンの見込み。中・短粒種は中国、タイ（もち米）から主に輸入している。

< インド >

【生育・生産動向】現地情報によれば、インド北西部では、2019/20年度のカリフ米の田植えがほぼ終了し、分けつ期から幼穂分化期に入っている。東部から南部では育苗期から田植え期に入っている。モンスーン期の降雨の遅れにより作付け進捗が多少遅れていたが、7月以降インド全域で降雨が継続していることから、生産への影響は解消されたとみられる。農家は、高価格かつ旺盛な輸出需要によりバスマティ米（高級香米）の作付けを増やしている。

USDAによれば、単収は前年度比で増加するものの、収穫面積が減少することから、生産量は対前年度比0.5%減の115.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、12.0百万トンの見込みで、依然として9年連続で世界最大の輸出国となる見込み。

インド食料公社によれば、前年度が豊作となったことから8月時点の政府備蓄量は27.5百万トンと7月1日時点の備蓄必要量（13.5百万トン）を大きく上回っている。

米－米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.7	7.1	6.5	▲ 0.1	▲ 8.4
消費量	4.3	4.4	4.4	▲ 0.0	▲ 1.4
輸出量	2.8	3.0	3.2	-	8.8
輸入量	0.9	0.9	0.9	-	1.1
期末在庫量	0.9	1.6	1.5	▲ 0.1	▲ 6.8
期末在庫率	13.2%	21.9%	19.8%	▲ 1.2	▲ 2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.10	-	▲ 6.8
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.49	▲ 0.14	▲ 1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)

米－インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、
南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	112.8	115.6	115.0 (116.5)	-	▲ 0.5
消費量	98.7	101.1	102.0 (102.0)	-	0.9
輸出量	12.0	11.6	12.0 (12.0)	-	3.4
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	22.6	25.5	26.5 (28.1)	-	3.9
期末在庫率	20.4%	22.6%	23.2% (24.7%)	-	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.90	44.50	44.00 (44.00)	-	▲ 1.1
単収(もみt/ha)	3.94	3.90	3.92 (2.65)	-	0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)、
IGC 「Grain Market Report (25 July 2019)」 (単収は精米t/ha)

<ベトナム>

【生育・生産動向】現地情報によれば、主産地のメコンデルタでは、7月末現在、夏秋作は幼穂分化期から収穫期に、秋冬作は分けつ期に入っている。一方、北部デルタの夏秋作は分けつ期に入っている。概ね順調に生育している。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の生産量は、冬春作（主要作期）と夏秋作の収穫面積の上方修正により前月予測から0.3百万トン上方修正され、対前年度比1.4%増の28.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019年7月のインディカ精米（碎米5%）の輸出価格は、353ドル/トンで、前年同月（518ドル/トン）と比べ低水準。同年1～7月の輸出量は、4.0百万トンと対前年同期比（3.9百万トン）で0.7%増となっている。前年度と比較して、フィリピン、コートジボワール、香港向けの輸出が大きく伸びている（約3倍）ものの、かつての主要輸出先であった中国、インドネシア向けが輸入需要の減退から8割減となっている。

<タイ>

【生育・生産動向】現地情報によれば、北東部や中部を中心に2019年4月以降十分な降雨がなく干ばつとなった地域があったが、7月後半から8月中旬にかけて継続的な降雨があったため、雨季米の作付けが進んでいる。干ばつの影響は緩和したものの、8月以降の降雨量によっては2018/19年度雨季米の大幅な減産が予想されている。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の生産量は、7月の降雨不足による灌漑稲作に不可欠なタイ北部の大貯水池の水位低下から収穫面積及び単収を下方修正したことから対前年度比0.2%減の20.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019年1～6月のタイ産米の輸出量は、ベトナム、インド、中国との競争激化、パーツ高等により、前年同期比19.6%減の4.4百万トンとなった。主な輸出先は、ベナン（85.8万トン）、南アフリカ（32.1万トン）である。

8月21日時点のタイ産米（100%2等）の輸出価格は446ドル/トンで、ベトナム産より2割程度割高であることから、輸入需要が低迷している。

米ーベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.7	27.9	28.3 (29.3)	0.3	1.4
消費量	21.5	21.5	22.0 (22.9)	-	2.3
輸出量	6.6	6.5	6.5 (6.6)	-	-
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.4	1.6 (3.7)	0.5	14.7
期末在庫率	3.7%	4.9%	5.5% (12.7%)	1.8	0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.65	7.67	7.67 (7.65)	0.17	-
単収(もみt/ha)	5.79	5.83	5.91 (3.82)	▲0.06	1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)

IGC 「Grain Market Report (25 July 2019)」 (単収は精米t/ha)

米ータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.6	20.6	20.5 (21.0)	▲0.4	▲0.2
消費量	11.0	11.0	11.0 (11.0)	-	-
輸出量	11.1	9.0	9.5 (9.9)	▲0.2	5.6
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.0	3.8	4.1 (3.8)	-	6.6
期末在庫率	13.6%	19.1%	19.8% (18.3%)	0.2	0.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.76	10.90	10.90 (11.00)	▲0.11	-
単収(もみt/ha)	2.90	2.86	2.85 (1.90)	▲0.03	▲0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)

IGC 「Grain Market Report (25 July 2019)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生育・生産動向】8月上旬現在、2019/20年度の二期作早稲は、南部の産地で登熟期に入っている。二期作晩稲は、田植え期から分けつ期に入っている。一期作稲は分けつ期から出穂期に入っている。6月から7月下旬にかけての適度な降雨により中国の大部分では概ね順調に生育しているが、8月上旬の台風9号の影響が一部であったとみられる。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、大豆への作付転換政策の影響で収穫面積及び単収ともに減少することから対前年度比1.7%減の146.0百万トンの見込み。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、飼料用向け消費の減少と政府保有在庫の放出量の伸び悩みから前月予測から1.6百万トン下方修正され、前年度並みの143.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、対前年度19.1%増の3.3百万トンの見込み。これは、政府備蓄在庫の古米が含まれることから特に中粒種の輸出価格が米国や豪州に比べ約半額となっていること、エジプト及び豪州が生産減少により輸出国から輸入国に転じたことを背景に、価格を重視するアフリカや中東の輸入国にとって魅力的な選択肢となっているためである。また、長粒種の輸出は、従来の輸出国であるタイ、ベトナムに代わり、サブサハラアフリカ向けで好調である。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（7月分）によれば、早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3,700元/トン、3,900元/トン、4,220元/トン。季節的要因により米価格が弱含みしている。

米－中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	148.9	148.5	146.0 (147.4)	-	▲ 1.7
消費量	142.5	143.0	143.0 (145.4)	▲ 1.6	0.0
輸出量	1.4	2.8	3.3 (3.4)	-	19.1
輸入量	5.5	3.3	3.3 (3.5)	▲ 0.1	1.5
期末在庫量	109.0	115.0	118.0 (99.3)	2.0	2.6
期末在庫率	75.8%	78.9%	80.7% (66.7%)	2.2	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	30.00 (30.05)	-	▲ 0.6
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	6.95 (4.91)	-	▲ 1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
IGC 「Grain Market Report (25 July 2019)」 (単収は精米t/ha)

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

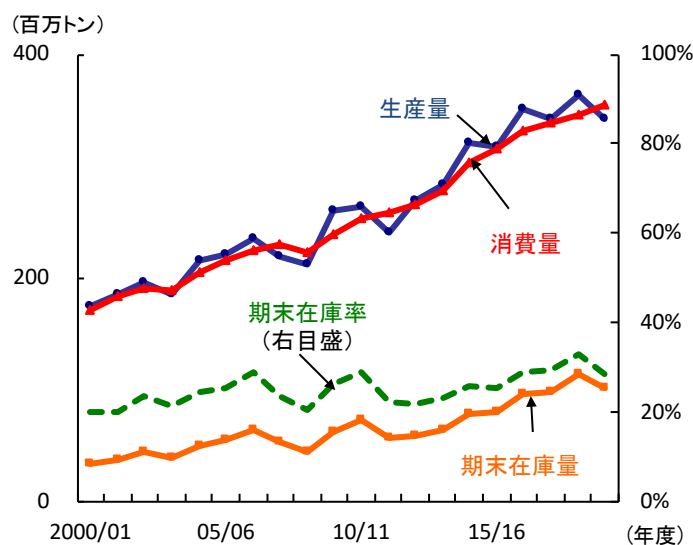
2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓
 ・米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓
 ・中国等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓
 ・米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2019.8.12）をもとに農林水産省で作成。

◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

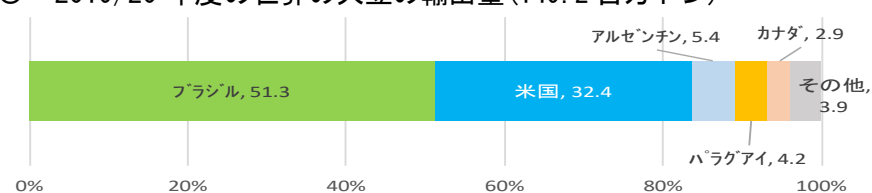
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	341.5	362.9	341.8	▲ 5.2	▲ 5.8
消費量	338.5	346.6	354.3	▲ 0.7	2.2
うち搾油用	295.2	299.8	307.1	▲ 0.8	2.4
輸 出 量	153.1	148.3	149.2	▲ 2.1	0.6
輸 入 量	153.0	147.5	148.9	▲ 1.9	0.9
期末在庫量	99.1	114.5	101.7	▲ 2.8	▲ 11.2
期末在庫率	29.3%	33.0%	28.7%	▲ 0.7	▲ 4.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2019)

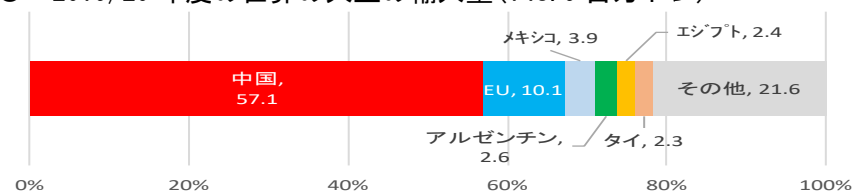
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量(341.8 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量(149.2 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量(148.9 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から4.5百万トン下方修正され100.2百万トンの見込み。「Oil Crop Outlook」(2019.8.14)によれば、大豆の収穫面積は、前年より14%減少し、過去8年間で最も低い。6月末の「作付面積調査」と比較して、サウスダコタ州、オハイオ州を始めほとんどの州で収穫面積は下方修正された。

同レポートによれば、7月の平均気温が平年より高かったコーンベルト東部において、表層土壌が乾燥傾向であったが、7月半ばのハリケーンの降雨により解消された。一方、ミシシッピデルタ地域では降雨により状況は良かった。

「Crop Progress」(2019.8.19)によれば、中西部での降雨により作付けが遅れたため、8月18日時点の主要18州における着莢率は、68%と前年度の90%及び過去5年平均の85%を下回っている。作柄評価は、良からやや良が53%と、前年度の65%より低下している。これは、不作となった2012年以来の低水準である。なお、収穫遅れによる霜害の懸念も生じている。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、生産量の減少等から、前月予測から2.7百万トン下方修正され48.3百万トンの見込み。期末在庫量は、生産量の減少から前月予測から1.1百万トン下方修正され、20.5百万トンの見込み。

輸出検証高（2019年1月1日～8月1日）は、24.3百万トンであり、内訳は中国（10.4百万トン）、メキシコ（2.7百万トン）の順である。

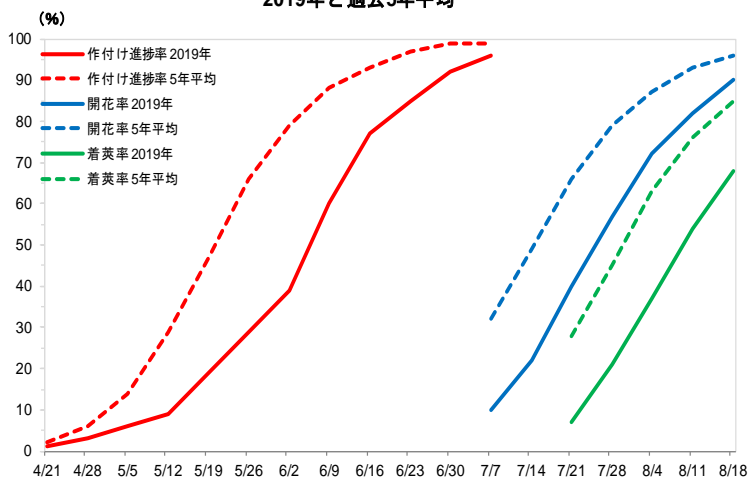
大豆—米国

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	123.7	100.2	▲ 4.5	▲ 19.0
消費量	58.9	60.7	61.0	▲ 0.1	0.5
うち搾油用	55.9	56.2	57.6	-	2.4
輸出量	58.1	46.3	48.3	▲ 2.7	4.4
輸入量	0.6	0.5	0.5	-	17.4
期末在庫量	11.9	29.1	20.5	▲ 1.1	▲ 29.5
期末在庫率	10.2%	27.2%	18.8%	▲ 0.5	▲ 8.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.24	35.66	30.70	▲ 1.38	▲ 13.9
単収(t/ha)	3.31	3.47	3.26	-	▲ 6.1

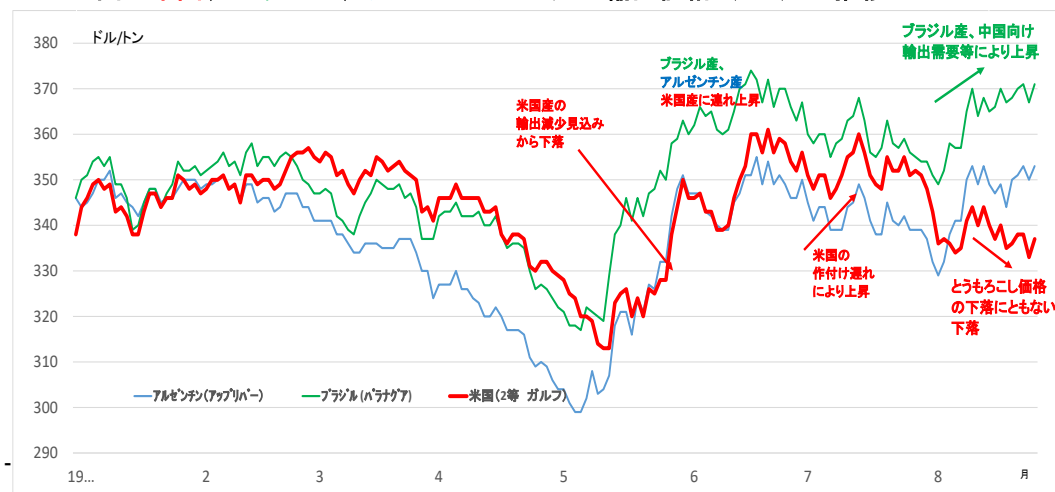
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)

図：USDA「crop progress」に見る米国産大豆の生育進捗の比較
2019年と過去5年平均



資料：USDA「Crop Progress」をもとに農林水産省で加工

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の123.0百万トンの見込み。本年9月以降に作付けが開始される。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、46.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、米国の輸出量の下方修正にともない、前月予測から0.5百万トン上方修正され76.5百万トンの見込み。世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によると、2019年1月～6月の輸出量は、44.5百万トンで、中国向けが最も多い。なお、報道によれば、ブラジル産大豆は、中国の需要が強い上、国内の搾油業者からの需要もあり、輸出価格は上昇傾向にある。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2018/19年度の大豆は、2019年2月には収穫が終了し、冬とうもろこしを栽培。

収穫後、2019/20年度の大豆の作付けを2019年9月以降開始見込み。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2018/19年度	2018年												2019年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオグランデス州等		作付 4.9(百万ha)						収穫 26.2(百万t)						収穫夏冬計 99.3						
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 17.3												作付 12.4			収穫 73.1					
大豆	マトグロソ州、パラナ州等		作付 35.9						収穫 115.1						早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種						

資料: CONAB 穀物レポート(2019.8.8)

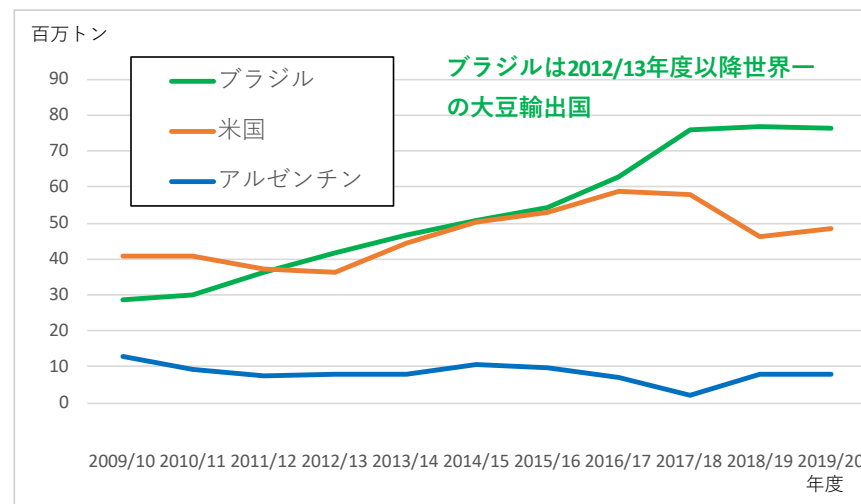
大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	122.0	117.0	123.0 (122.0)	-	5.1
消費量	46.5	45.9	46.5 (…)	-	1.4
うち搾油用	44.5	43.2	43.8 (…)	-	1.3
輸出量	76.2	76.9	76.5 (…)	0.5	▲ 0.5
輸入量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	33.3
期末在庫量	32.7	27.2	27.4 (…)	▲ 0.1	0.7
期末在庫率	26.7%	22.1%	22.2% (…)	▲ 0.2	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.15	35.90	36.90 (36.70)	-	2.8
単収(t/ha)	3.47	3.26	3.33 (3.32)	-	2.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(26 July 2019)

図: 主要大豆輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2019.8.12)をもとに農林水産省で作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく6.2百万トンの見込み。

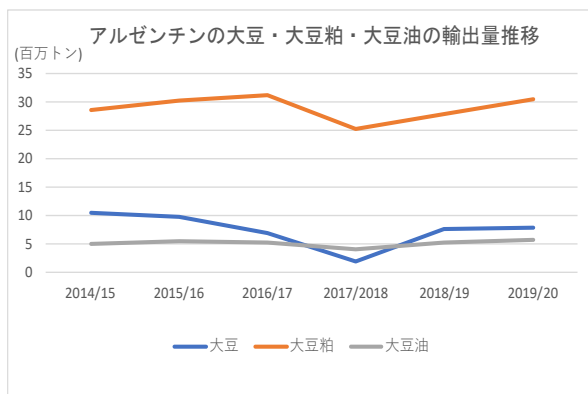
また、カナダ農務農産食品省（AAFC）によれば、主産地のカナダ東部については、6月以降の降雨の影響で土壌水分過多であったが、7月を通じて温暖な乾燥天候となり、生育環境は改善された。

【需給動向】USDAによれば、前月から0.2百万トン上方修正され、2.1百万トンの見込み。一方、AAFCによれば、米国からの大豆粕輸入や、国内における大豆油需要が横ばいであることから、搾油量は前年と比べわずかに減少している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、在庫が潤沢であることから、前月予測から0.2百万トン上方修正され4.4百万トンの見込み。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、53.0百万トンの見込み。なお、2018/19年度の収穫は、2019年6月までに終了し、単収は過去最高となった。2019/20年度の作付けは、本年10月以降、開始される。



資料：USDA「PS&D」（2019.8.12）をもとに農林水産省で作成。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は前月予測から変更はなく、8.0百万トンの見込み。

なお、アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆油の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多い。(左図参照)

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	7.7	7.3	6.2 (6.7)	-	▲ 15.1
消費量	2.9	2.9	3.0 (2.5)	0.4	1.0
うち搾油用	1.9	2.1	2.1 (1.9)	0.2	2.4
輸出量	4.9	5.0	4.4 (4.7)	0.2	▲ 12.0
輸入量	0.5	1.2	0.8 (0.4)	-	▲ 33.3
期末在庫量	0.6	1.2	0.8 (0.6)	-	▲ 31.6
期末在庫率	8.1%	14.9%	11.0% (8.0%)	▲ 0.9	▲ 3.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.94	2.55	2.20 (2.30)	-	▲ 13.7
単収(t/ha)	2.63	2.86	2.82 (2.91)	▲ 0.04	▲ 1.4

資料：USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(21 August 2019)

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	37.8	56.0	53.0 (52.8)	-	▲ 5.4
消費量	43.6	47.9	52.2 (…)	-	8.9
うち搾油用	36.9	41.0	45.0 (…)	-	9.8
輸出量	2.1	7.8	8.0 (…)	-	3.2
輸入量	4.7	6.4	3.9 (…)	-	▲ 38.6
期末在庫量	23.8	30.5	27.2 (…)	1.0	▲ 10.7
期末在庫率	51.9%	54.7%	45.2% (…)	0.02	▲ 9.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	17.00	17.50 (17.00)	-	2.9
単収(t/ha)	2.32	3.29	3.03 (3.11)	-	▲ 7.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(26 July 2019)

< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、17.0百万トンの見込み。

【需給動向】2019/20年度の消費量は、USDA「Oil Crops Outlook」によれば、2018年に発生したアフリカ豚コレラの影響から中国国内の飼料用需要が低調なため、前月予測から1.0百万トン下方修正され102.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、アフリカ豚コレラの影響が長引いており、米国との通商摩擦の長期化により、中国の輸入需要が減少しており、2019/20年度の輸入量は、前月予測から2.0百万トン下方修正され85.0百万トンの見込み。

また、通商摩擦に関しては、8月6日に、中国商務部が中国国営企業に対して米国産農産物の購入の一時停止を要請したと公表。8月23日には、財政部が、2018年7月から米国産農産物の輸入に賦課していた25%の関税に加え、2019年9月1日以降の米国産大豆への追加関税(5%)について公表した。これらの影響については、今後の中国の輸入動向を注視する必要がある。

中国の貿易統計によれば、6月の輸入量は、6.5百万トンと前年度同月と比べ、2.2百万トン減少した。内訳は、ブラジル産5.5百万トン、米国産0.6百万トンである。

大豆—中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	15.9	17.0 (16.7)	-	6.9
消費量	106.3	102.1	102.7 (…)	▲ 1.0	0.6
うち搾油用	90.0	85.0	85.0 (…)	▲ 1.0	-
輸 出 量	0.13	0.13	0.13 (…)	-	-
輸 入 量	94.1	83.0	85.0 (…)	▲ 2.0	2.4
期末在庫量	23.5	20.2	19.4 (…)	▲ 2.0	▲ 4.1
期末在庫率	22.1%	19.8%	18.8% (…)	▲ 1.7	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.25	8.40	9.10 (8.25)	-	8.3
単収(t/ha)	1.84	1.89	1.87 (2.04)	-	▲ 1.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(26 July 2019)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月		20年3月～21年2月	
EU	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		19年9月～20年8月
ブラジル		20年3月～21年2月	20年4月～21年3月	19年10月～20年9月
アルゼンチン	19年12月～20年11月	20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド	19年4月～20年3月		19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年8月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805)
--